

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 8月20日

【評価実施概要】

|               |                                          |       |           |
|---------------|------------------------------------------|-------|-----------|
| 事業所番号         | 4075400335                               |       |           |
| 法人名           | 有限会社 みやび                                 |       |           |
| 事業所名          | グループホーム みやび                              |       |           |
| 所在地<br>(電話番号) | 福岡県鞍手郡鞍手町大字猪倉542番地<br>(電 話) 0949-42-2237 |       |           |
| 評価機関名         | 特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会                     |       |           |
| 所在地           | 福岡県北九州市小倉北区真鶴2-5-27                      |       |           |
| 訪問調査日         | 平成19年8月17日                               | 評価確定日 | 平成19年9月7日 |

【情報提供票より】(平成19年7月10日 事業所記入)

(1) 組織概要

|       |                  |             |             |
|-------|------------------|-------------|-------------|
| 開設年月日 | 平成 16 年 12 月 7 日 |             |             |
| ユニット数 | 1 ユニット           | 利用定員数計      | 9 人         |
| 職員数   | 8 人              | 常勤 7 人, 非常勤 | 人, 常勤換算 7 人 |

(2) 建物概要

|      |                   |                   |
|------|-------------------|-------------------|
| 建物形態 | 併設/ <del>単独</del> | <del>新築</del> /改築 |
| 建物構造 | 木造平屋建て 造り         |                   |
|      | 1階建ての 階 ～         | 1階部分              |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |                      |                |     |
|---------------------|----------------------|----------------|-----|
| 家賃(平均月額)            | 35,000 円             | その他の経費(月額)     | 円   |
| 敷 金                 | 有( 円) <del>(無)</del> |                |     |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 有( 円) <del>(無)</del> | 有りの場合<br>償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費                | 朝食 円                 | 昼食 円           |     |
|                     | 夕食 円                 | おやつ 円          |     |
|                     | または1日当たり             | 1,000 円        |     |

(4) 利用者の概要( 7 月 1 日現在)

|       |           |      |      |    |      |
|-------|-----------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 9 名       | 男性   | 5 名  | 女性 | 4 名  |
| 要介護1  | 4 名       | 要介護2 | 3 名  |    |      |
| 要介護3  | 2 名       | 要介護4 | 名    |    |      |
| 要介護5  | 名         | 要支援2 | 名    |    |      |
| 年齢    | 平均 83,6 歳 | 最低   | 63 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

|         |          |
|---------|----------|
| 協力医療機関名 | もち浜クリニック |
|---------|----------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

青々とした水田が広がる、静かで落ち着いた環境の中に「グループホームみやび」がある。利用者を本当の家族として思いやるオーナー夫妻や職員の優しい見守りの中で、利用者一人ひとりが自由に穏やかに暮らしている。前回の外部評価で要改善と指摘された点については真摯に取り組み、改善し、施設長、職員が目指す「愛と向上心」という理念を実践する努力が伺える。開設当初から口腔ケアに力を入れ、入居当初に比べ、利用者の食べる力が格段に向上している。昼食時、利用者が美味しそうにしっかりと食事している様子が印象的である。また、週一回行われる認知症専門医による訪問診療と、看護師であるオーナーによる、医療の取り組みも充実している。職員は利用者の能力を活かした役割分担をさげなく支援し、きめ細やかな見守りの中、一人ひとりの尊厳を大切に、安心した暮らしが営まれているグループホームみやびである。

【重点項目への取り組み状況】

|       |                                                                                                                                                                        |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 重点項目  | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)                                                                                                                                   |
| ①     | 前回の要改善点16件中11件が改善されている。「馴染みの食器の使用」「成年後見制度の研修」「感染症マニュアルの整備」「職員の継続的な研修受講」「事故報告書、ヒヤリハットの活用」などが今後の課題である。                                                                   |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)                                                                                                                                            |
| ②     | 自己評価は、職員がミーティングで意見を出し合い、管理者がまとめる形で作成している。今後は、職員一人ひとりが自己評価に取り組み、更なるサービスの質の向上に繋がっていくことが望まれる。                                                                             |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)                                                                                                                             |
| ③     | 運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。出席者から活発な意見や要望が出て、今後が期待できる会議である。双方向的な意見交換が出来るような会議を目指し、サービスの質の向上に繋がっていくことが望まれる。                                                               |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)                                                                                                                                  |
| ④     | 手作りの苦情箱を設置している。行事や催し、利用者の現状報告を記載したホーム便りの下半分に苦情、要望欄を作り、家族の意見が表出しやすいように工夫している。玄関設置の苦情箱の名称をご意見箱に変えることが望まれる。                                                               |
| 重点項目⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)                                                                                                                                               |
| ⑤     | 近隣に民家は少なく、町内会も無いため日常生活における連携はとりにくいが、散歩のコースに老人会会長の家があり、一緒に散歩し、交流している。また、町主催の「家族教室」に講師として出席し、家族の相談を受けている。今後は、地域の幼稚園や小・中学校などに積極的に声をかけ、体験入居の実現や認知症についての啓発活動に繋がっていくことが望まれる。 |

## 2. 評価結果(詳細)

( ☐ 部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項 目                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                      | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                                                          |
|-----------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <b>I. 理念に基づく運営</b>    |    |                                                                                         |                                                                      |      |                                                                                                           |
| 1. 理念と共有              |    |                                                                                         |                                                                      |      |                                                                                                           |
| 1                     | 1  | ○地域密着型サービスとしての理念<br>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                  | 「愛と向上心」を柱に、住み慣れた地域の中でその人らしく暮らす大切さを考えて作った理念である。                       |      |                                                                                                           |
| 2                     | 2  | ○理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 職員はミーティング時に必ず理念を唱和し、理解し、実践に向けて取り組んでいる。                               |      |                                                                                                           |
| 2. 地域との支えあい           |    |                                                                                         |                                                                      |      |                                                                                                           |
| 3                     | 5  | ○地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 近隣に民家が少なく町内会も無いため、地域活動に参加する事は難しいが、近所の住民と一緒に散歩したり、挨拶したりなど、交流に努めている。   |      |                                                                                                           |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |                                                                                         |                                                                      |      |                                                                                                           |
| 4                     | 7  | ○評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 前回の外部評価を十分に活かして、熱心に改善に取り組むサービスの向上に努めている。                             |      |                                                                                                           |
| 5                     | 8  | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催し、利用者やサービスの実際などの報告や話し合いを行っている。                    | ○    | 評価への取り組み状況について明示し、事業所の姿勢をアピールしたい。家族代表を核に、ボランティアの協力を得て、地域に開かれたグループホームとして信頼され、同時に認知症への理解と啓発活動を進めていくことが望まれる。 |
| 6                     | 9  | ○市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                  | 鞍手町主催で、年1回家族教室が開催され、職員・家族も参加し、情報交換や問題提起等、サービスの質の向上と質の確保に努めながら協力している。 |      |                                                                                                           |

| 外部              | 自己 | 項 目                                                                                                                  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                         | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                     |
|-----------------|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------------------------------------------|
| 7               | 10 | ○権利擁護に関する制度の理解活用<br>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している                        | 月1回のミーティング時に、権利擁護に関する学習をしている。職員は家族に説明し、パンフレットを目に触れやすい場所に掲示し、理解してもらっている。 | ○    | 管理者や職員が、「日常生活自立支援事業」や「成年後見制度」などを理解するための外部研修会参加などが望まれる。               |
| 4. 理念を実践するための体制 |    |                                                                                                                      |                                                                         |      |                                                                      |
| 8               | 14 | ○家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                                              | 家族は支払いのため、月に一度来所し、職員は利用者の日頃の暮らしぶりや現状を報告し、記念写真やホーム便りなどを渡している。            |      |                                                                      |
| 9               | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                                | 手作りの苦情箱が置かれているがなかなか意見が出てくれないので、ホーム便りの下半分を苦情・意見を頂く欄として、意見が出し易い様工夫している。   | ○    | 家族会を立ち上げ、家族の意見がホーム運営やサービスに反映されることが望まれる。                              |
| 10              | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている                 | 職員全員で利用者のケアにあたっているため職員が皆馴染みになっている。そのため、職員の異動による利用者の影響は最小限である。           |      |                                                                      |
| 11              | 19 | ○人権の尊重<br>法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障 | ハローワークを通じ、性別、年齢などを問わず採用している。職員についても、生き生きと向上心を持って勤務出来る様努めている。            |      |                                                                      |
| 12              | 20 | ○人権教育・啓発活動<br>法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる                              | 施設長は利用者の人権を尊重するために、常に職員に理解できるよう話す努力をしている。                               | ○    | 人権に関するビデオなどを利用し、職員に対する人権教育に取り組み、認知症に対する理解を広めるための啓発活動に取り組んでいくことが望まれる。 |
| 5. 人材の育成と支援     |    |                                                                                                                      |                                                                         |      |                                                                      |
| 13              | 19 | ○職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている                              | 勤務ローテーションの問題などから、なかなか段階に応じた研修を受ける機会の確保がなされていない。                         | ○    | 勤務ローテーションを工夫し、職員の経験や技量に応じた研修会に参加できるよう努力し、その研修内容を全職員が共有できる体制が望まれる。    |

| 外部                                 | 自己 | 項 目                                                                                                     | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                  | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 14                                 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている       | 町内5ヶ所のグループホームと情報交換をして、職員間の交流やサービスの質の向上に繋げている。                    |      |                                  |
| <b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>         |    |                                                                                                         |                                                                  |      |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応          |    |                                                                                                         |                                                                  |      |                                  |
| 15                                 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用<br>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 入居前に、来所が可能な方に対しては、直接ホームを見て頂き、納得した上で入居していただいている。                  |      |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援          |    |                                                                                                         |                                                                  |      |                                  |
| 16                                 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている                        | 職員と利用者が一緒に過ごしながら、心配したり、されたり等、支えあう関係を築いている。                       |      |                                  |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |                                                                                                         |                                                                  |      |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                        |    |                                                                                                         |                                                                  |      |                                  |
| 17                                 | 33 | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している                                            | 利用者一人ひとりの満足度を高めるため、思いや希望を時間をかけ、細かく聞き取り、可能な限り思いに沿えるよう努めている。       |      |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し     |    |                                                                                                         |                                                                  |      |                                  |
| 18                                 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している        | 月1回のミーティングで、職員が意見を出し合い、家族、協力機関の医師などの意見を聞きながら、介護計画を作成している。        |      |                                  |
| 19                                 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し<br>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している     | 介護計画は毎月見直ししている。変化が生じた場合、速やかに主治医、家族に連絡し、その都度現状に即した介護計画の見直しを行っている。 |      |                                  |

| 外部                                     | 自己 | 項 目                                                                                         | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                          | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------------|----|---------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------|------|----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用) |    |                                                                                             |                                                                          |      |                                  |
| 20                                     | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | オーナーが看護師であり、毎週、認知症専門医の訪問診療を受診し、利用者の健康状態を見守り、配慮している。                      |      |                                  |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働            |    |                                                                                             |                                                                          |      |                                  |
| 21                                     | 43 | ○かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 24時間体制で病院と連携し、医師と相談しながら対応している。                                           |      |                                  |
| 22                                     | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 入居時から家族と話し合う機会をたびたび持ち、かかりつけ医等も含め、全員で方針を共有できるようにしている。                     |      |                                  |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援              |    |                                                                                             |                                                                          |      |                                  |
| 1. その人らしい暮らしの支援                        |    |                                                                                             |                                                                          |      |                                  |
| (1) 一人ひとりの尊重                           |    |                                                                                             |                                                                          |      |                                  |
| 23                                     | 50 | ○プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | ミーティング時に繰り返し話し合い、職員の意識の向上に努めている。                                         |      |                                  |
| 24                                     | 52 | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 利用者の思いを時間をかけ、細かく聞き取り、出来る限り一人ひとりが満足し、安心できる日常生活が送れるよう支援している。               |      |                                  |
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援          |    |                                                                                             |                                                                          |      |                                  |
| 25                                     | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている                | 職員が利用者の好みを聞きながら、献立を決定している。職員と利用者が一緒にテーブルについて楽しみながら食事をしている。               |      |                                  |
| 26                                     | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している               | なるべく一人ひとりの希望を聞きながら、入浴を楽しめるよう支援している。入浴を拒む人に対しては、細やかな配慮、説得を行い入浴できる支援をしている。 |      |                                  |

| 外部                            | 自己 | 項 目                                                                                                       | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)                                                                                          | (○印) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                          |
|-------------------------------|----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|---------------------------------------------------------------------------|
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |                                                                                                           |                                                                                                                          |      |                                                                           |
| 27                            | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている                           | 利用者一人ひとりに合わせ、洗濯物を干す、たたむ、食事の後のテーブル拭き、畑の草取りなど役割分担をし、力を発揮し、張り合いのある日々を過ごせるよう支援している。また、週1回の訪問診療の後に音楽療法で7～8曲歌うなど、気晴らしの支援をしている。 |      |                                                                           |
| 28                            | 61 | ○日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                                             | 一人ひとりの希望に応じて、散歩に行ったり買い物に行ったりし、戸外に出かけられるよう支援している。時には、食堂の前に繋がるウッドデッキを利用し、外出気分を味わっている。                                      |      |                                                                           |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |                                                                                                           |                                                                                                                          |      |                                                                           |
| 29                            | 66 | ○鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる                                    | 日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。                                                                                                     |      |                                                                           |
| 30                            | 71 | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている                                | 事業所内での避難訓練を行い、消火器を設置している。                                                                                                | ○    | 避難訓練マニュアルを作成し、消防署や地域住民の協力を得て、夜間を想定した避難訓練を実施し、また、災害に備え食料や飲料水、毛布などの備蓄が望まれる。 |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援    |    |                                                                                                           |                                                                                                                          |      |                                                                           |
| 31                            | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 介護日誌、申し送りノートに食事摂取量を記入し、職員が必ず目を通し、情報を共有し、対処している。                                                                          | ○    | 水分の摂取状況を記録し、食事の栄養バランスを考慮し、カロリー過不足や水分不足が起こらない支援が望まれる。                      |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり       |    |                                                                                                           |                                                                                                                          |      |                                                                           |
| (1) 居心地のよい環境づくり               |    |                                                                                                           |                                                                                                                          |      |                                                                           |
| 32                            | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関前はゆったりしたスロープで、周りには花が植えられている。玄関や廊下の壁には手作りの折り紙や絵などが飾られ、家庭的な雰囲気である。食堂の前に広々としたバルコニーがあり、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫されている。             |      |                                                                           |
| 33                            | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 居室は利用者のお孫さんの写真や手作りの品が飾られ、利用者の好みや馴染みのものが置かれ、家庭的である。                                                                       |      |                                                                           |